

J A 御 中
(営農担当部署)

福岡県米・麦・大豆づくり推進協議会
(事務局：J A 福岡中央会 担い手・営農サポートセンター)
(公印省略)

【緊急・重要】

営農情報 1 2

《穂いもち対策》

本年は、8月中旬から降雨が多く、日照不足の状態が続いています。

このため、穂いもちの発生が懸念され、福岡県農林業総合試験場（福岡県病害虫防除所）から、8月27日付けで注意報が発表されています。

今後の天気予報から、いもち病の感染に好適な気象条件が継続する見込みで、穂いもちの発生が懸念されます。このため、葉いもちの発生が確認されるほ場では、出穂前後の穂いもち防除を徹底してください。

○農林業総合試験場（病害虫防除所）による、8月5半旬の葉いもち調査結果
(定点 46 地点の調査結果)

	本年	平年	前年
発病株率 (%)	11.6	8.7	4.6

・葉いもちの発病率は平年および前年より高い。

〈防除の徹底〉

- ・ 穂いもちは、発生後の防除が困難なため、予防防除が重要です。
- ・ 葉いもちの発生が多い場合は、穂いもちに進展する恐れがありますので、注意しましょう。

〈防除対策〉

- ・ 中晩生の品種で、穂いもちの発生が懸念されるほ場では、出穂直前と穂揃期の2回防除を徹底して下さい。
- ・ 早生品種では、出穂直前の防除に加え、穂揃期にも防除を実施して下さい。

〈その他〉

- ・ 中晩生品種で、粒剤を散布する場合には、収穫前日数等の使用規制に注意し、早めに施用します。
- ・ 液剤は散布後乾くと降雨があっても効果は高いですが、粉剤は散布後6時間以内に降雨があった場合は、効果が低下するので、降雨の合間に防除する場合は、気象情報に注意してください。
- ・ 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統剤の連続施用は避けましょう。

薬剤防除にあたっては、周辺作物への飛散防止に努めるとともに、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を確認し、適切な薬剤散布を心がけましょう。

以上